

1. 4月全国行事

1) 世界保健デー

4月7日

2. 「STOP！転倒災害プロジェクト2015」 厚生労働省

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

4. 他社の事故・災害事例から : フォークリフトの急ハンドルで転倒

5. 今月のヒヤリハット

2. 「STOP！転倒災害プロジェクト2015」 厚生労働省

厚生労働省と労働災害防止団体は、休業4日以上死傷災害で最も件数が多い「転倒災害」を減少させるため、1/20から「STOP！転倒災害プロジェクト2015」を開始しました。このプロジェクトでは転倒災害の多い2月と全国安全週間準備月間である6月を重点取組期間として、安心して働ける職場環境の実現を目指します。

平成26年の労働災害は、上半期時点で大幅な増加となったことから、昨年8月に「労働災害のない職場づくりに向けた緊急要請」を行う等、各種対策を推進したところであるが、結果的に死亡災害、死傷災害ともに前年を下回るには至っていない。このため平成27年度においては、休業4日以上死傷災害の2割以上と、最も件数が多い転倒災害に着目することとした。特に、高年齢労働者が転倒災害を発生させた場合は、その労災の程度が重くなる傾向にあるため、今後、労働力人口の高齢化が一層進行すると見込まれる中、事業場における転倒災害防止対策の徹底を図ることは極めて重要と考えられる。本プロジェクトは、職場における転倒リスクの総点検と、必要な対策を講ずることにより、職場の安全意識を高め、安心して働ける職場環境を実現することを目的として実施するものである。

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

平塚第二工場 トイレを改装し、工場美化に努めていた。



4. 他社の事故・災害事例から : フォークリフトの急ハンドルで転倒

<災害のあらまし>

フォークリフトの運転手(35歳)は、朝、出社後上司から、公道で荷積みを行っているトラックに急いで予定の荷を運ぶように指示され公道を走行中、工場の角から出てきた自転車を避けようと急ハンドルを切ったため、フォークリフトが横転して投げ出され、全治1ヶ月の重傷を負いました。

<災害の主な原因>

- ①急いだ気持ちでフォークリフトの運転をしていたため、安全確認をしなかったこと。
- ②積み荷の安定が悪く、スピードが出ていたため、急なハンドル操作で横転したこと。
- ③公道を走行することの安全対策や運転者への安全教育が行われていなかったこと。
- ④監督者は急ぎの作業を指示する際、安全運転等について注意しなかったこと、など。

<同種災害の防止対策 例>

- ①フォークリフトの公道走行に関しては、近隣住民や警察と相談して、表示や標識、カーブミラーの設置など、格別の安全対策を行う。
- ②フォークリフト運転業務従事者教育を実施し、スピード、急ハンドル、急ブレーキ、積載方法などの危険性について再教育を行う。
- ③部下等に急ぎの作業を指示する時は、安全のポイントを示して注意を喚起する。作業者も危険を予測予知して行動するよう習慣化する、など。

5. 今月のヒヤリハット: 各事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

「危ないぞ 相互注意で防ぐ事故 見て見ぬふりが 大事故に」

事例	鉄板で指を切りそうになった。
どこで	実験室で。
あらまし	防錆紙に梱包された鉄板を素手で運搬中、角部から露出した鉄板に指を引っ掛けた。怪我はしなかったが、軍手等をして怪我をしないように努めるべき事を痛感した。
原因	軍手(保護具)を着用しなかったこと。
教訓・対策	鋭利なもの(危険源)を扱うときは、保護具を着用すること。

事例	ホースに足が引っかかり、転倒しそうになった。
どこで	実験室で。
あらまし	縦型ブースで処理を実施していたところ、水洗用のホースに足が引っかかり、転倒しそうになった。
原因	足もとのホースに気づかずに、作業をしていたこと。
教訓・対策	作業の環境を整えて実験をすること。

6. その他

省エネ、産廃削減活動などを、引き続きお願いします。

「出来ることから即実践、習慣付けよう省エネ職場」 H26年度環境保全最優秀作品